

公益社団法人 福島県看護協会

# 会津支部だより

第15号

発行所  
公益社団法人  
福島県看護協会会津支部  
発行責任者：山田香代子  
発行者：広報委員会

## 感謝



福島県看護協会 会津支部長  
山田 香代子

この一年を振り返りますと、支部活動は以前の活動に一気に戻った感があります。まあの保健室や看護の日イベント、教育研修、看護研究発表会などを事業計画通り実施できました。ご支援・ご協力ありがとうございました。

主だった活動ですが、県看護協会会長に就任された佐藤博子新会長をお迎えした「看護管理者懇談会」では、新会長の所信表明に接し、気持ちも新たに引き継いでいこうと思えました。そして、昨年引き続き自治体の保健師に地域の健康課題の講演、その後、参加された方々から日頃の取り組みや情報の共有などについて活発な意見交換もされ、課題解決に向けた関係づくりに繋がる会になりました。「地域看護活動」では、看護の日のイベントを中学生向けに開催しました。参加者は少なかつたものの保護者の方と一緒に「看護師の仕事」を体験する機会となりました。「看護研究発表会」は、昨年は発表者、共同研究者のみに参加者を限定しての開催でしたが、今年是一般参加者、看護学校の学生の皆さんが参集し百名を超える規模の開催となりました。看護研究発表のテーマも、福島県看護協会に合わせ、看護研究以外に実践報告についても含むものとなりました。これは、発表に臨む機会が広がることにもなりますので今後も期待しております。

支部活動の一年の締めくくりは、この広報誌の発行となります。県看護協会のホームページに今年から支部コーナーが作られました。

た。随時支部活動を発信しておりますが、例年通り広報誌を会員の皆さんのお手元にもお届けします。

次年度も、引き続き皆さまのご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

会津支部活動報告		
開催日	内容	場所
5月21日(日)	まちの保健室	道の駅あいづ 湯川・会津坂下
6月17日(土)	ふくしま看護の日イベント	アピオスペース
7月2日(日)	まちの保健室	道の駅あいづ 湯川・会津坂下
8月30日(水)	看護管理者懇談会	スマートシティ AiCT
9月10日(日)	まちの保健室	道の駅あいづ 湯川・会津坂下
9月21日(木)	教育研修会	スマートシティ AiCT
10月29日(日)	会津若松市健康まつり	会津若松文化センター
11月27日(月)	看護研究発表会	アピオスペース



## 地域看護活動について

地域看護活動委員 長谷川 昌子

今年度より、地域看護活動を担当しています。

地域看護活動は主たる活動として「まちの保健室」を実施しています。昨年度までは、感染拡大防止の観点から中止せざるを得ない状況が続きました。今年度は「まちの保健室」を四回も実施することができ、毎回五十名以上の地域住民に参加していただきました。

「まちの保健室」は「地域住民を対象に、心身の健康、子育て、生活習慣病、介護など様々な不安や悩みを、ゆっくり語れる「場」を提供し、気軽に健康に関する相談に応じる。看護に関する知識の普及や、情報の提供により不安を軽減できるような地域のニーズに合った開催をする」と、なっています。



## 看護管理者懇談会報告

広報委員会 遠山 恵美子

令和五年度の「看護管理者懇談会」は、八月三十日にスマートシティAiCTで開催されました。講師は、今年より福島県看護協会会長に就任された佐藤博子先生、南会津保健所健康福祉部保健福祉課課長の大竹香織先生をお迎えしました。参加者は看護管理者と役員を合わせて二十六名でした。

はじめに、佐藤博子先生より「福島県看護協会の動き」として講演を頂きました。就任の挨拶の後、福島県看護協会の事業方針と令和五年度の重点事業についてお話がありました。事業方針1では、「生涯学習支援」の理解促進、事業方針3では「就業継続が可能な看護職の働き方の提案」で示された五要因と十項目の周知と理解、事業方針4では、入会促進活動の強化について話されました。特に福島県看護協会への入会率が五十%を切っていることから、新卒新人へは、各職場で職能集団の重要性を説明し、理解していただき入会に繋げて欲しいと話されていました。

次に大竹香織先生からは、「地域包括ケアシステムへの取組み」として、地域の健康課

## 教育委員会活動状況・今後の計画について

教育委員会 佐藤 文久

ここ数年の教育委員会の活動では、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、研修会なども以前のように実施できる状況にありませんでした。その中で、感染状況に目を配りながら、人数制限を含めた感染対策を行い、研修会や看護研究発表会を集合研修で開催してきました。

今年度の研修会では、福島県看護協会六支部の共通テーマである「意思決定支援」について、在宅看護専門看護師の先生を講師に招き開催しました。各職場で苦慮しているケースなどについて、実際に先生よりアドバイスをいただき数多くの学びがありました。

看護研究発表会では、今年度六題の演題募集がありました。十一月の発表会を前に発表者は、特別委員の先生方と直接、査読・個別指導を行いました。発表会実施後のアンケート結果からは、「自身の病院でも参考にしたい」「活かせることが多くあった」「患者様一人一人に合わせた援助を目指しての研究がたくさんあり、よりそう看護、チームでの看護が出来ていると感じた」などの良い意見も多くなりました。また、看護学生を含め百十六名の参加があり、数年ぶりに多くの方々に参加していただけた看護研究発表会となりました。

今後も福島県看護協会の共通テーマを含めた研修会の開催や、年一回の看護研究発表会を企画していきたいと思っております。また、看護研究発表会では、数多くの演題をお待ちしております。今後とも活動へのご理解とご協力の程、よろしくお願いたします。



のため「まちの保健室」では身長や体重測定、血圧測定を実施し、健康相談を実施してきました。また、会津若松市主催の健康まつりにも参加し、握力測定やフレイル予防について地域住民に指導することができました。

六月には「看護の日イベント」として看護に興味のある中学生、保護者、教職員を対象に看護を体験するコーナーを設置しました。「まちの保健室」や「看護の日イベント」に参加した方々からは「良い体験ができた」「また参加したい」との声もいただき、委員の活動意欲を高めることができました。近く「まちの保健室」が開催された場合は是非お立ち寄りください。

今後とも活動へのご理解とご協力をよろしくお願いたします。

題について講演をいただきました。福島県は全国に比べ、心疾患・脳血管疾患による死亡率が高く、震災後に増加傾向にあり重要課題であること。そしてその改善に向け、生活習慣の見直しやおいしく健康的な食環境づくり推進事業を進めているとお話がありました。

講演後は、参加者より多くの意見や質問があり、講師を交え活発な意見交換となり、充実した時間となりました。



看護研修会

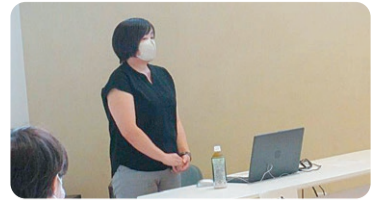


看護研究発表会

研修会

「あらゆる場での意思決定支援」に参加して

広報委員会 山田 いづみ



令和五年九月スマートシティAICTにて会員四十五名が参加し、奥会津在宅医療センター在宅看護専門看護師 柏木久美子先生より演題「あらゆる場での意思決定支援」の講話があった。奥会津の特徴として高齢化、人口減少による過疎化、豪雪地帯であり、入院ができる病院も一病院しかなく、交通手段も不便である。住み慣れた場所最後まで「生ききる」そのためにいろいろな職種の方々と奥会津在宅医療センターを立ち上げ、訪問診療・訪問看護を実施している。

地域の高齢者、一人暮らしをしている方々の声を聴き寄り添うこと。ほかの家族、周りの住民からの協力を得やすい環境を作ることでも大切であること。地域住民との交流をしながら、家族、地域の協力者などに本人のどこで生ききりたいのか意思表明をすることが大切であることを講話していただいた。

また講話の中で関わった事例を参考に自分の今までの対応を思い返してみると、傾聴が少なく説得をしがちになっている、本人の思いと家族の思いを決めつけてしまうところがあったと気づけた。自分がどうしたいのか(意思決定)を他の人たちに伝えることは大切であるが、どのように伝えるのか、相手にわかってもらえるのか、意思を伝えることが重要であることを学ぶことができた。



令和五年度看護研究発表会講評

特別委員 村岡 由利枝

今年度は四施設から六題の研究発表が行われ、多くの参加者のもと、活発な意見交換が行われました。

ターミナルステージにある同居患者への退院支援では、アドバンスケアプランニングの重要性が再確認できました。ベッド周囲環境調整からの学びでは、患者の尊厳と自律性を支援する看護師の役割が明確になりました。院内だけでなく、一般地域社会においても一次救命を実施できる社会の実現が求められている現在、急性期病棟における救急看護実践能力向上を目指した取り組みでは、さらに専門性を必要とする二次救命処置実践力向上の必要性を再認識できました。クリニカルパス評価の充実では、バリアンスに着目し、パス

の効果性を述べています。口腔ケアは食物残渣物を除去し疾患を予防するだけでなく、嚥下機能の回復や認知症の予防にも効果があります。義歯管理の問題点を明らかにすることにより看護の質の向上が期待できます。脳卒中患者の夜間の車椅子自立における取り組みは、個別性に応じた援助を提供するための体制作りを意識のある研究であったと言えます。今後も看護の質の向上にむけ看護研究に取り組みされることを期待しております。



介護老人保健施設

「ケアホームやまと」



介護老人保健施設ケアホームやまとは、喜多方市山都町にある施設です。

平成十四年四月に開設し今年で二十一年目を迎えました。一般棟四九床、認知症専門棟三十九床、短期入所二床の九十床で令和四年度からは在宅強化型として施設を運営しています。

当施設ではケアプランを基に在宅復帰を目指して管理医師、看護職員、介護職員、リハビリ職員、管理栄養士と多職種協働で利用者様、ご家族様も含めたケアをしています。その中で看護の役割としては疾病をみる医療の視点だけでなくその人らしい生活を続けていけるという視点をもちながら専門職として関わっています。

当施設の特徴として看護・介護を中心に利用者様の願いを叶える「あなたの日」というものを実施しています。これは入所中であれば普段できない事を一年間に一回やりたいことを叶えましょうというコンセプトで行っています。コロナ禍以前は「泊まらないまでも自宅に行ってみよう」「自分の気に入った服を買いたい」「ラーメンやすしを食べたい」などに対して職員が同行して買い物や食事を一緒にしてきました。コロナ禍になり外出の自粛などがあって以前のように活動は出来なくなりましたが規模を縮小して、食べたいものを利用者様と一緒に作って食べる、車で自宅周辺まで訪問してくるといった活動をしています。

今後も「明るく 元気に まごころこめて」を理念として利用者様・ご家族様に満足していただけるサービスを提供していきたいと思っております。又、買い物支援や清掃活動などの地域貢献活動を通して地域に根ざした施設を目指していきたいと思っております。

(看護長 平塚 寿和)

トピックス癒し

kirei塾

今回はkirei塾の紹介をしたいと思います。皆さんZUMBAって聞いたことありますか？ラテン系の音楽とダンスを融合させたダンスフィットネスエクササイズなんです。Kirei塾ではインストラクターのTSUYAさんが楽しく教えてくれます。いろんなイベントにも参加して踊ってるんですよ。稽古堂ではワンコインで参加出来ますよ。皆さんも一緒に体を動かしませんか？ダンスが苦手な方はヨガ(ルーシーダットンやインド式ヨガ)もやってますので覗きにきてみてね。



編集後記

コロナが5類に移行したことで、会津支部の活動が以前と同様に活動することができました。今年度の広報誌はレイアウトを一新し、より見やすいものとなりました。お忙しい中、原稿を寄稿して頂いた皆様には深く感謝致します。

広報委員

市原 智文・山田 いづみ  
酒井 美紀子・遠山 恵美子

